

# 街全体に咲き乱れる象徴

イスタンブルで毎年4月ごろに開催されるチューリップの祭典。

市全体で開催される春の訪れを告げる恒例行事で、トルコの伝統と文化を五感で体感できるイベントとして定着している。

## 大規模なインフラ整備進む

トルコでは国を挙げて大規模なインフラ整備を進めている。その1つが昨年12月に開通したイスタンブル市内のボスポラス海峡の欧州/アジア側を結ぶユーラシア・トンネルだ。同海峡では鉄道専用の1本目に続く2本目の海底トンネルで、自動車専用となっている。ピーク時に100分かかっていた欧州/アジア間の移動が最短10分

になり、慢性的な渋滞の緩和に加え、燃料消費低減による環境への好影響にも期待されている。

トンネル開通に先立つ昨年8月には、同海峡3本目となるヤウス・スルタン・セリム橋(第3ボスポラス大橋)が開通した。全長1875m、幅59mと世界最大規模の吊り橋で、美しい外観が特徴。同橋を通る高速道路の先では、インフラ整備の目玉としてイスタンブル第3空港の建設も進む。



- 1 チューリップと伝統的建造物のコントラストを楽しむ4月のトルコ
- 2 チューリップを愛したオスマン帝国君主の居所・トプカプ宮殿
- 3 祭典期間中は音楽イベントなども併催される
- 4 ボスポラス海峡を同時に眺望できるスポットがお勧め
- 5 色や形が多様なチューリップが市全体に広がる



## イスタンブル・チューリップ・フェスティバル

4月にトルコを訪れるなら、イスタンブルで開催されるチューリップ・フェスティバルは見逃さない。今年は4月1～30日に開催予定で、国花でもあり、トルコを語るうえで欠かせないチューリップを市内全域で楽しめるのが特徴だ。市民や国内観光客など現地トルコ人の来場者も多く、入園料の設定もなく無料なのうれしい。

一押しの見どころは、トプカプ宮殿隣接のギェルハネ公園や、アヤソフィア博物館前のスルタンアフメット地区で展開されるチューリップカーペットで、一面に広がる色とりどりのチューリップは圧巻。また、オスマン帝国末期にスルタンが居住したユルドゥズ宮殿、新市街ボスポラス海峡沿いの高台に広がるエミルガン公園なども、トルコならではの

背景とチューリップの対比を鑑賞できるユニークなポイントで、特に海峡を同時に俯瞰できる場所は人気だ。

ルートで回る場合は、金角湾を挟んで分かれている観光の見どころあふれる旧市街と、中世欧州の影響を色濃く残す新市街にコースを分けるとよい。旧市街では、スルタンアフメット地区のチューリップカーペットを起点にトプカプ宮殿(有料)、ギェルハネ公園と巡れば、オスマン帝国時代の世界遺産にも触れることができる。一方、このシーズンにお勧めなのは新市街、宮殿もあるユルドゥズ公園やエミルガン公園に向かうルートで、エミルガン公園内にあるチューリップ博物館ではトルコと欧州のチューリップの歴史を味わうことができる。

4月は、日本でも花見の時期となっているように急速に春めいてくるシーズン。トルコでも朝夕はまだ肌寒い日もあるが、中・下旬にかけて暖くなるため過ごしやすく、また周辺ホテルの予約率も年間を通じて落ち着いているシーズンなので、部屋の確保が難しくないといいポイントもある。

### 博物館でルーツを学ぶ

トルコでチューリップは、“Everything beyond a flower”として、植物の域を超越した存在となっている。発祥は同国アナトリア地方と考えられており、12世紀からは工芸品のモチーフとして活用されていたほか、多くの

著名な詩人が作品中でシンボルとして使っていた。その後16世紀から18世紀のオスマン帝国時代にチューリップの黄金時代が到来。宮廷での観賞のほか、建築や文学、芸術、陶磁器、織物などさまざまな分野のデザインパターンとしてトルコ文化に深く根付いていった。

トルコから外に持ち出されたのは16世紀ごろ。最初にオーストリア・ウィーンに運ばれ、その後オランダやカナダ、日本など世界中に広がっていった。現在では世界各地でチューリップの祭典が開催され、人や文化の架け橋としての役割を果たしている。そしてトルコ国内でも文化財としてチューリップは今なお重要視されており、市内で毎年植栽が行われているほか、後世へと受け

継ぐためにイスタンブルチューリップ財団が設立され、独自の調査や研究、保護が進められている。

そうしたトルコとチューリップの歴史・文化が学べるスポットとしてお勧めなのが、15年に同財団が開設したチューリップ博物館だ。市内・新市街地区のエミルガン公園にあり、チューリップとトルコの歴史や植物としての成長過程を説明した展示のほか、トルコの伝統工芸エブル(ペーパー・マーブリング)の体験もできる。オスマン帝国時代にチューリップを飾っていた花瓶などの美術品レプリカやチューリップをテーマとした土産品も販売されており、観光スポットとしても楽しめるので、イスタンブル旅行ではぜひ訪れたい。



左/15年にオープンしたチューリップ博物館 右/博物館ではその歴史や文化をはじめ、トルコとの深い関わりを学べる